

平成25年度文化庁委託事業

「国語に関する世論調査」を基にした動画作成業務

## 「ことば食堂へようこそ！」

# 耳ざわり

映像台本

4分11秒

※ この台本は、撮影時に使用したものですが、アドリブ等が加わっているため、実際の動画の台詞とは一部異なっているところがあります。また、台本という性格上、公用文式の表記と一致しない部分があります。

# 耳ざわり

学校帰りの道/大学生男：川原田 樹 大学生女：松本 さやか

映像	カット	音声
プロローグ		
<p>1 スタジオ・ことば食堂</p> <p>・解説者：シェフあかり 話し始める</p> <p>・本日のメニューを書く 顔・手元</p> <p>・書き終わって、コメント</p> <p>・タイトル（ボードの手書き文字）</p> <p>・本日のメニュー</p> <p>『耳ざわり』</p>		<p>♪コミカルな音楽</p> <p>解説者</p> <p>「ことば食堂へようこそ！</p> <p>皆さんが、日常の中で、何気なく使っている言葉。</p> <p>本来の意味を知らないと、うまくコミュニケーションが取れないことがあります。</p> <p>当店が本日お薦めするメニューは、こちら！</p> <p>『耳ざわり』。」</p>
スキット		
<p>2 スタジオ・道</p> <p>&lt;学校帰りの道：大学生の会話&gt;</p> <p>・学校帰り 歩いてくる二人</p>		<p>男性「あの、教授の講義、面白いよね。」</p> <p>女性「本当、人気あるよね。</p> <p>じゃあ、また来週ね。」</p> <p>男性「うん、ああ、そうだ忘れてた！（<sup>かばん</sup>鞆からCDを出す）これさ、この間、話したバンドのCD、聞いてみて。」</p> <p>女性「ああ、ありがとう。」</p> <p>男性「(告白するように)美咲、もし、気に入ったらさ、そのバンドのライブに一緒に行かない？</p> <p>来月のライブのチケット買ったんだ。」</p>

<p>・男性の頭の上に？マーク</p>	<p>女性「本当，どんなところがいいの？」          男性「やっぱり，耳ざわり…かな。」          女性「えっ？」          男性「耳ざわりが，気持ちいいんだよね。」          女性「大輔くんって，そういうの好きだったんだ…。」          男性「俺，結構，耳ざわりにはこだわるからね。」          女性「そうなんだ，わたしは，いいわ…。」          男性「えっ？ライブ行こうよ，耳ざわりが本当に気持ちいいんだよね。」          女性「いや，遠慮しとく。そういう不快な音って趣味じゃないから，じゃあねー。」          男性「ええ？」</p>
---------------------	---

解説 (1分)

<p>3 スタジオ・解説者 画面左</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画面左で解説者：シェフあかりが話す</li> <li>・解説者の右横にメニューが出る</li> </ul> <p>聞いたときの感じ，印象</p> <p>聞いていて耳に障ることと書いてある</p> <p>聞いていて耳に障ることを強調</p> <p>4 写真付きイラスト</p> <p>男子学生の聞いたときの感じ，印象</p> <p>8. 8%</p> <p>女子学生の聞いていて耳に障ること</p> <p>86. 5%</p>	<p>解説者 「『耳ざわり』とは本来，『聞いたときの感じ，印象』と言う意味でしょうか？          それとも『聞いていて耳に障ること』という意味でしょうか？」</p> <p>解説者 「『耳ざわり』とは，本来『聞いていて耳に障ること』という意味です。」</p> <p>「平成14年度の『国語に関する世論調査』で，その意味を聞いてみました。          結果を見ると，本来の意味である『聞いていて耳に障ること』を選んだ人の割合は『聞いたときの感じ，印象』を圧倒的に上回っています。」</p>
--	---

## 5 解説者の右横に CG 文字

『耳ざわり』

『聞いて気に障る様子』

『聞いて嫌な感じがする様子』

『耳障り』『目障り』

『手触り』『肌触り』

『耳触り』

『耳障り』『耳触り』

## ボード文字

『耳ざわり』

『聞いていて耳に障ること』

## 6 スタジオ・ことば食堂

・右画面 ワイプ内

男性が、ヘッドフォンで

音楽を聴きながら歩いてくる

・解説者 正面を向き、笑う

解説者「『耳ざわり』は、元々『聞いて気に障る様子』とか『聞いて嫌な感じがする様子』という意味で『目障り』と同じく『耳障り』と書くのが伝統的な形でした。」

解説者「しかし、この『さわり』を、『手触り』や『肌触り』などのように『接触』の意味として『耳触り』と考える捉え方も広がってきています。」

解説者「この捉え方の場合、聞いていて、心地良い場合にも、うるさい場合にも、用いられており、永井荷風の作品にも使用例があります。

このように、『さわり』の意味の取り方の違いによって、理解が分かれ、使われ方が分かれているようです。しかし、『聞いたときの感じ、印象』の意味と考える人は多くはありませんから、誤解されないように、使うときには注意が必要な言葉です。」

「『耳ざわり』。その本来の意味は、『聞いていて耳に障ること』です。」

男性「(音楽に乗りながら) この耳ざわりの良さを分か  
ってほしいなー。」

解説者「… (笑顔でいる)。」

END